

# 3-5

## 多職種の連携によるアプローチ

ご利用者様を中心としたチームで取り組む個別支援

連携

個別支援

特別養護老人ホーム 特別養護老人ホームさの

介護職員・渡邊昇吾	介護職員・吉田美貴
所在地 足立区佐野 2-30-12	施設内各委員会
TEL : 03-5682-0007	E-mail : uiland1@wonder.ocn.ne.jp
FAX : 03-5682-0077	URL : www.13.ocn.ne.jp/~sousei6/
今回の発表の施設 またはサービスの 概要	平成3年に区立初の特養として100名定員(50名の認知症専用棟を擁す)で開所。従来型施設としてサービスを提供している。平均介護度は約4.1であり、認知症の利用者が8割を超える。

### 〈取り組んだ課題〉

これまでの業務に利用者様を当てはめていた画一的なケアに問題意識を持ち、利用者様を主体とした個別ケアへ移行してきている取り組みである。

- ① ステレオタイプな集団から個別に向けての実践
- ② 報告・連絡のみの単独で一方通行での連携から利用者様を中心とする包括的な業務連携への移行

### 〈具体的な取り組み〉

※各担当、委員会、セクションが連携し、協働していく。

(ケース1) S.Kさん 85歳 女性 要介護5

課題：入所時にステージ4の状態である褥瘡の治癒

- ・褥瘡委員会 月1回の会議にて状態の経過報告(患部の写真撮影)、対策の検討。
- ・リハビリ担当 PT、NSの助言・指導により体位交換、ポジショニング、クッションの当て方の周知徹底。
- ・栄養ケア 栄養補助食品の検討
- ・排泄担当 便汚染時の洗浄徹底、排泄形態の検討。
- ・看護係 皮膚状態観察、処置。主治医への連絡、相談。
- ・相談係 各担当等からの情報をご家族へ報告、調整。

○褥瘡委員会が中心になって情報を提供し、各担当・委員会が情報を共有し、アプローチすることで、現在はステージ3まで治癒している。

(ケース2) Y.Mさん 66歳 男性 要介護5

課題：拘縮の進行、栄養状態の悪化や体調不良による皮膚疾患が見られるため、拘縮の予防と栄養改善を図る。

- ・リハビリ担当 PTの助言による体位交換、ポジシ

### ニングの周知。

- ・栄養ケア 栄養状態の観察、栄養補助食品・自助具の検討。
- ・排泄担当 排泄形態の見直し、介助方法の改善。
- ・看護係 皮膚状態観察、処置。主治医への連絡、相談。
- ・相談係 ご家族への情報提供、連絡。

○リハビリ担当が主として関わり、拘縮が緩和され、自助具を使用することで自力摂取が可能となる。栄養状態が改善され、ご本人も活気が見られてきた。

### 〈活動の成果と評価〉

- ・職員の意識の変化、観察力や注意力、関心の向上。
- ・介護方法の徹底による介護技術の向上、統一されたケアの実践。
- ・事故の減少。
- ・ご家族への詳細な情報提供・連絡により施設での介護に安心感を持っていただけたこと、また、状態改善に対して喜びの声が聞かれた。
- ・各担当のマニュアル作成により役割が明確化された。
- ・ケースによって主となる委員会、担当が違ってそれぞれが連携したことで個別ケアへと繋がった。

### 〈今後の課題〉

- ・居室担当を軸にケアを進めるスタイルの確立。
- ・居室担当、委員会、担当の情報の共有。
- ・各担当、委員会に職員の意見が反映されるよう、多くの職員が関わり、情報を共有できるようにしていく。

## 【メモ欄】